

## 令和 6 年度第 6 回国立市学校給食運営審議会

会場： くにたち食育推進・給食ステーション会議室

日時： 令和 7 年 6 月 26 日（木）午後 2 時から午後 3 時 40 分まで

出席者： 中村委員、池上委員、木曾委員、森田委員、宇津野委員、村上委員、末田委員、  
中島委員、二俣委員、川端委員、矢野委員（11 名）

事務局： 久保所長補佐、長野主査、岩田主査

【宇津野副会長】 それでは定刻となりましたので、これより令和 6 年度第 6 回国立市学校給食運営審議会を開始いたします。本日は中村会長が少し遅れていらっしゃいますので、それまでの時間、副会長である私が司会進行を務めさせていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。本日の欠席状況ですが、保護者代表で第三小学校の片山委員、第八小学校の林委員、また、市立学校医代表の七条委員、市立学校薬剤師代表の里道委員、学識経験者の伊藤委員、堀端委員より欠席する旨の連絡をいただいております。

それではまず、今回より事務局職員が 4 月 1 日付人事異動により変更があったということで、紹介をお願いいたします。

【事務局】 はい。それでは、会議前の貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。

去る 4 月 1 日付けの人事発令により、食育推進・給食ステーション所長が土方より伊形に代わっております。なお、本日伊形につきましては、体調不良のため欠席とさせていただきます。

今年度は市の事務局として所長を含め、この 4 人で執務して参りますので、どうぞよろしくをお願いします。

【宇津野副会長】 ありがとうございます。ただいまのご報告の通り、事務局職員が変更されましたことについて、各位におかれましては、ご承知おきください。それではまず資料の確認をしたいと思います。事務局よりお願いします。

【事務局】 はい。それでは議事に先立ちまして、資料の確認をお願いいたします。

まず、運営審議会次第、それと資料 1 の令和 6 年度事業報告。資料 2 の令和 6 年度学校給食費決算報告書。資料 3 の令和 6 年度事業の総括となります。過不足等ございますでしょうか。  
はい。ありがとうございます。

【宇津野副会長】 ありがとうございます。

それでは資料 1 の事業報告について、を議題とします。事務局から報告をお願いします。

【事務局】 それでは、事業報告につきましてご説明いたします。

資料 1 をご覧ください。令和 7 年 2 月 21 日の第 5 回運営審議会以降、本日 6 月 26 日までの 4

ヶ月分の事業報告をさせていただきます。

3月6日には、地元農家やJA東京みどり農協、市長部局の農業振興担当と協力して、国立地区学校給食部会を設立し、その総会をJA東京みどり農協国立支店にて開催いたしました。

10日には、庁内栄養連絡会主催の小学校給食試食つき食育講座「脳と腸のはなし」を健康まちづくり戦略室と共催しました。

18日には図書館との共催にて読み聞かせブックメニュー給食の試食を実施しました。また、同24日に3学期の給食が終了いたしました。

新年度になりまして、4月10日に小学校の一部、14日に全学校の給食を開始しております。

28日には初の試みとなる学校振替休日を利用した特別イベント「親子でスクールランチ」を第一小学校、第二小学校を対象に、給食ステーションで実施しました。当日は37名の参加がございました。

30日には多摩地区学校給食共同調理場連絡協議会総会及び場長会が国立市で開催されました。

6月に入り、令和7年度の新委員による初めての献立作成委員会を3日に、また12日には物資選定委員会が開催されました。

5日には、庁内栄養連絡会主催による「フレイル予防講座～カルシウムと血圧のはなし～」を開催いたしました。地域包括支援センターの管理栄養士が、パワーポイントと紙ベースの資料を使って講話をし、その後、くにたち食育推進・給食ステーションの紹介を行い、栄養バランスのよい小学校給食を喫食していただきました。当日は満員となり、30名の参加がございました。

20日には、学校給食費決算について監査委員に監査していただきましたので、後程監査の報告をしていただきます。

最後に、本日第6回運営審議会という経過でございます。報告については以上です。

【宇津野副会長】 報告が終わりました。ご質問やご意見がありましたらお願いします。

【村上委員】 五小の村上です。3月の試食つき食育講座「脳と腸のはなし」、こちらは誰を対象にやられて何人ぐらいの参加でどんな感じだったんでしょう。

【宇津野副会長】 事務局お願いします。

【事務局】 はい。対象は市内在住の方になります。これも30名の定員で、ほぼ満員だったかと思われま。

【村上委員】 どういう世代の方が多かったんでしょうか。お母さん世代が多いのか、逆に60代とか70代とか。

【事務局】 そうですね高齢者まではいかないイメージです。50代60代と、成人から高齢者にかけての方が幅広く来ていただきました。男女問わずっていう感じですかね。男女問わずですがやはり女性の方が多かったかと思います。

【村上委員】 わかりました。ありがとうございます。

【宇津野副会長】 他にございますか。よろしいでしょうか。

特にないようですので、（挙手）村上委員、お願いします。

【村上委員】 同じく「読み聞かせブックメニュー給食の試食」図書館との共催でしたけど、こちらでも何かどんな内容だったのかと、どう盛況だったのかとか、そういったちょっと具体的な雰囲気がわかるようなものを聞きたいです。

【事務局】 はい。こちらは市内在住の未就学児とその保護者を対象にしました。確か10人ぐらいだったと思います。図書館の職員が来まして、こちらで読み聞かせをしてもらって、そのあと、このイベントに合わせてぐりぐら給食を準備していましたので、ブックメニューとしてぐりとぐらのお話に出てくる、献立を召し上がっていただきました。

【村上委員】 ありがとうございます。ここでいろんなイベントがあって、しかも、全部ほとんど満員ということで、やっぱりすごく食に関して市の大人から子供まで、興味があるんだなということがすごくわかりました。ありがとうございます。

【宇津野副会長】 他にご意見ございますでしょうか。はい、お願いします。

【森田委員】 二小の森田です。3月の19日の沖縄県うるま市からの視察ですか。この目的とどういった質問があったか教えてください。

【事務局】 質問の内容までは今ここで分からないのですが、（うるま市の）運営事業者がシダックスに決定しているか予定しているということで、国立に興味があつていらっしゃいました。視察のときは大体給食つきでご案内をするようにしているので、ここで施設を見ていただいて、質問にお答えして、給食を召し上がっていただいて、帰るという流れにしています。ちょっとすいません質問の答えにはなっていないかもしれませんが。

【森田委員】 ありがとうございます。

【宇津野副会長】 他にご質問ご意見はよろしいでしょうか。

特にないようですので次に移ります。

それでは、資料2の令和6年度学校給食決算報告について、を議題とします。事務局から報告をお願いします。

【事務局】 はい。それでは、令和6年度の学校給食費決算について報告します。資料の2をご覧ください。まず1枚おめくりいただきまして1ページ目です。

収入の部ですが、給食費は、調定額2億429万7765円に対し、収入額は1億9498万6866円。未収入額は870万9616円で、収納率としては95.44%となっております。なお、不納欠損額につきましては60万1283円です。

給食費の内訳ですが、令和6年度の現年度給食費としては、調定額が1億9555万692円に対して収入額は1億9455万1469円、未収入額は99万9223円で、収納率は、99.49%となっております。

令和5年度以前の過年度給食費としましては、調定額が874万7073円に対し、不納欠損額が60万1283円、収入額が43万5397円、未収入額が771万393円で、収納率については5.35%となっております。

前年度繰越金が、935万8554円。雑入が、廃油売却収入と預金利子で、20万3787円。最後に一般会計からの補助金として、摘要欄に記載の補助金を9405万4350円繰り入れております。収入額の合計としては、2億9860万3557円です。

下段に移りまして、左側の支出になりますが、主食購入代として5048万3377円。副食購入代として、1億7782万7023円、牛乳購入代として6062万4450円。調味料購入代として841万6709円で、合計額は2億9735万1559円となります。

その右側の表になりますが、収入合計から支出合計を差し引いた残額は125万1998円になります。この残額を令和7年度に繰り越します。

続きまして2ページになりますが、これ以降については、1ページ目でご説明した内容の補足資料となっています。

まず2ページ3ページについては、小学校、中学校別に、1ページで説明した現年度給食費の収入における調定額、収入額等の各項目を月別で示しております。2ページが小学校で、3ページが中学校と総合計になっております。さらに表の右側のほうに喫食者数を添えております。

続きまして、4ページと5ページ目については、小学校中学校別に、1ページで説明した物資購入代の支出に係る内訳を月別に示したものです。また、主食と副食についてはさらに細かく分類させていただいております。

続きまして6ページです。こちらは1ページで説明した過年度給食費の収入と不納欠損額の対象年度等を示したものです。不納欠損については、納入がなく10年を超えたもの、及び5年を超えて、市外に転出したものについて不納欠損として処分しております。表で言えば、一番上の平成26年度分の39万4871円と、令和元年度分の20万6412円が該当します。

また、収入合計額内訳としましては、小学校分が33万3133円、中学校が10万2264円で収納率としては5.35%です。

不納欠損処分については、次のページ7ページにて詳しく説明しておりますので、後程ご覧いただければと思います。

続きまして8ページです。こちらは過年度給食費の未納額を、小中学校及び年度別に示したもので、上段が人数、下段が金額となっております。

続きまして9ページです。こちらは不納欠損の対象者を記載しております。注意書きにございますが、同一アルファベット数字違いは兄弟姉妹の意味となっております。

続きまして10ページになります。こちらは前年度給食費未納額の内訳を小学校、中学校、教職員別に各項目について記載しています。

続きまして11ページです。こちらはそれぞれの項目における前年度との比較資料になります。

す。

最後のページになりますが、去る6月20日に行いました国立市学校給食運営審議会監査委員による監査、の報告書となります。

報告は以上です。

（上記報告中に会長到着）

【中村会長】 はい。それでは報告が終わりました。ご質問等がある場合は、監査委員の監査報告を受けてから承ります。それでは第一中学校二俣委員よりお願いいたします。

【二俣委員】 第一中学校の二俣です。それでは監査報告をいたします。監査報告書をご覧ください。監査は6月20日金曜日、午前10時頃から、国立市食育推進・給食ステーション2階会議室兼キッチンルームで行いました。監査の内容は、令和6年度の学校給食費の収支書類と証拠書類を監査したもので、監査の結果はここにありますとおり令和6年度の学校給食費収支状況について、帳簿及び預金通帳等を照合した結果、適正に処理されていることを認めます。

令和7年6月26日、国立市学校給食運営審議会、監査員、林あき、二俣里美、以上です。

【中村会長】 監査委員には大変お忙しい中、帳簿や関係書類について監査をしていただきました。まことにありがとうございました。

それでは、ご意見やご質問等がございましたらよろしくお願いいたします。

池上委員お願いいたします。

【池上委員】 はいすいません、二小の池上と申します。よろしくお願いします。

10ページの給食費未納額の内訳のところ、教職員と給食センター職員で未納額ゼロになっているんですけども、回数払いの職員とか引き落としの職員とかいると思うんですが、結構（ステーションへの）問い合わせで「この方は納入されていますか？」って聞いたときに、「ちょっと通帳の中だとわかりませんね」って言われたこともあって、本当に皆さん、こちらも把握しきれてない部分があるので、ステーションの方に把握していただいているんですけど、年度内にちゃんと全員が納入できているのかっていうところはどのようにしてご確認いただいているのかっていうのと、いつ締めで確認していただいているのかっていうのをちょっと教えていただきたいです。

【中村会長】 それでは事務局の方よりよろしいでしょうか。お願いいたします。

【事務局】 はい。お答えします。教職員についてはですね、年度内に全部完納していただいているんです。ただ、年度内というのは、市の会計上ですね、4月と5月については、出納整理期間というものを設けておりまして、3月で締めたものを5月の末日までに支払いしていただくというような、その調整期間というものを設けているんですね。ですので、6年度について言えば6年度内、7年の5月の末日までに納めていただくようにこちらからはお願いをして、皆さんに納めていただいている、というような状況です。

【池上委員】 具体的にお伝えすると、例えば振込用紙を（教職員に）渡すじゃないですか。

納入通知書をお渡しして、これで振込お願いしますって給食主任からいくじゃないですか。今回センターでやり方変えていただいていると思うんですけども、それで、渡すまでがこちらの仕事になっていて、本当にその方々が期日までに、納入しているかっていうところがちょっとこちらとしてはすごく心配ではあったんです。回数払いの方も、その期日まで、3月の末までに納入されていない場合は、その調整期間の間に、センターの方から、個人的に連絡がいて、お願いされているということで間違いないですか。

【事務局】 はい。そうですね。基本的には3月末までにご連絡を差し上げているんですが、それまでに間に合わない方につきましてはこちらから改めてご連絡をして、期日までに納入していただくというような形をとっております。

【池上委員】 どうもありがとうございます。

【中村会長】 その他、よろしいでしょうか。

はい。村上委員お願いいたします。

【村上委員】 五小村上です。表の数字の見方でちょっと私がわからないなと思ってるのが、2ページと3ページの小中学校の収支状況表があって、調定額とか収入額とかが1月から3月が大分減るのは、何か理由があるんですか。給食数が減り、少ないからとかそういうことなんですかね。でも喫食者を見るとそんなに、人数に変化がないので、作る量が減るからでしょうか。

【中村会長】 事務局お願いします。

【事務局】 これはですね、3学期からの無償化の影響ですね。調定額については児童生徒と教職員分がもともと入っているんですけども、ご存じの通り昨年度3月から給食費無償化になりましたので、こちらの調定額は教職員のみとなっております。

【村上委員】 わかりました。これから無償化が続くと、令和7年度っていうのは、その未納っていう概念がなくなるっていうイメージでしょうか。今までこうやってそこで見せてもらっていたけども。

【事務局】 お答えします。基本的にそうですね教職員分に関しては、もう完納するのが前提になっているので、その分はなくなるんですけども、過年度分についてはまだ残っていくので、引き続き給食費納入をお願いするような形になります。

【中村会長】 ありがとうございます。その他、よろしいでしょうか。

特になければよろしいですか。それでは、(3)の令和6年事業総括について、を議題とします。事務局から説明をお願いします。

【事務局】 はい。それでは、前年度との違い等、ポイントを絞って報告いたします。

1. 食の安全安心の確保の(1)地場野菜の使用量につきましては、9.7%と令和5年度と比べて1.7ポイントの減となっています。これは天候不順により野菜の生育に大変な影響があり、納入できる野菜が激減したことと、納入してくださっている農家さんの体調不良と諸般の

事情によるものでございます。

(2) 給食の充実につきましては、学校訪問や行事食や郷土料理、オリパラ応援献立などを実施した他、黒ポチ4つ目で、都立瑞穂農芸高等学校生徒と市内イタリアンシェフとの三者コラボ給食を実施し、生徒が飼育した豚を食材として2日間にわたり、全11校に給食提供しました。

黒ポチ5つ目では地元フレンチシェフと地元野菜と三者コラボ給食を企画、実施いたしました。

黒ポチ9つ目で、地場農産物のさらなる活用促進のため、様々な農家、農協、農業振興担当と協議を行い、国立地区学校給食部会を立ち上げました。

(3) 食物アレルギーへの対応につきましては、以下の通り対応を行い、アレルギー等対応食を小学校17名、中学校2名に提供しました。

2、食育の推進、学校や他部署等との連携では、小中学校の児童生徒への施設見学や栄養士による食育事業などを実施した他、黒ポチ3つ目で運営事業者と連携し、夏休み給食ステーション探検ツアーを企画実施しました。当日は児童生徒含め91名の参加があり、エアシャワー体験や調理場を探検するなど、普段は入ることのできない場所の貴重な体験を提供しました。

黒ポチ4つ目では、第二小学校夏季特別講座（二松クラブ）「カムカムキッチンカード遊び」～給食について知ろう～に7名の栄養士が講師として参加しました。当日はカムカムキッチンカードの作成や「給食の魚知ってる？」と題した魚釣りゲームを行いました。

次に黒ポチ9つ目では、庁内栄養連絡会主催による他部署連携事業フレイル予防講座を2回実施しました。

黒ポチの一番最後ですが、急遽の学級閉鎖に伴い廃棄せざるをえない食材をフードパントリーに提供いたしました。

3. 円滑な運営管理の実施につきましては、学校給食運営審議会を初め、各種委員会を運営した他、(1) 給食費事務の黒ポチ2つ目では令和6年度3学期分の給食費より、児童生徒分については公費負担（無償化）としました。また、物価高騰の対応としまして、給食費の改定を実施しました。

最後に今後の課題でございますが3つ挙げております。1つ目としては、会計の透明性や食材の安定供給などの観点から、公会計化に向けた検討及び実施です。

2つ目としては、先ほど説明の冒頭でも触れましたが、地場野菜の使用率が減少しておりますので、徐々にではありますが、国立地区学校給食部会と協力して使用率の向上に努めて参ります。

3つ目としては、まず給食運營業務をしっかりと行い、その上で可能な範囲にはなりますが、学校や他部署等と連携し、食育の推進を行っていきたいと考えております。

どれも大変重要な課題だと認識しておりまして、どの課題にも全力で解決や成果を出すこと

に向けて進捗できるよう業務を進めて参ります。以上です。

【中村会長】 説明が終わりました。ご質問やご意見がありましたらお願いいたします。

【村上委員】 はい。

【中村会長】 村上委員、お願いいたします。

【村上委員】 2つあります。1つ目が国立地区学校給食部会の立ち上げて、すごいことだと思うんですが、6月10日にもそちらの打ち合わせが入ってたかと思うんですけども、実際新しく立ち上げたこの部会でどんな話し合いをしていってるのか、私たちがわかる範囲で教えてください。

あと2つ目は、二小の取り組みの簡単なキッチンカード遊びとか、その7名の栄養士さんが指摘してくるっていうイベントってすごくいいイベントだと思うんですが、これを他の小学校にも、例えば、毎年そういう機会を作るとかそういうふうに関連していくことってというのはできるんでしょうか。なぜかという、私、五小の給食審議委員で、副校長先生に（二小で）そんなことやったんですよみたいな話をしたんですが、今言われてもみたいな、なんて言うんでしょう、前年度に計画に取り込みたから、もしこれをしたいんだったらもっと前に言って欲しいみたいなそういう学校の、イベントの取り組める期間みたいのがあるので、給食審議委員発信です、多分二小さんはされたんだと思うんですけども、そうじゃなくて他の学校にもこういういいものが、イベントが回るように、何かできないのかなと思って意見させていただきました。はい。お願いします。

【中村会長】 まずは事務局より説明お願いいたします。

【事務局】 給食部会の件ですが、6月に行ったのは、7月分の納入できそうな野菜を農家さんと、調整するというか、これは今までの地域自給くにたちのやり方と変わっていないので、基本的には毎月会議を行っているところで、翌月分の野菜、どんな野菜を出してもらっているとか、農家さんがこんな野菜を作っていますだったり、逆に給食ステーションがこんな献立を予定していますという意見交換をしています。

【村上委員】 それは今まではやって、今までも別の機会で行っていたことが今回部会として立ち上がって定期的になったみたいな印象なんですか。

【事務局】 はい。今までも毎月1回同じことを行っていました。

【村上委員】 部会になることによって、何かこう変化っていうのはあるんでしょうか。

【事務局】 ちょっと今でき上がって、これからどんどん進めていくところなんですが、農家さんの数は増えました。

ちょっと補足しますと、今まではNPO法人の地域自給くにたちというところと、地場野菜についていろいろ調整してたんですけども、高齢化でもう担い手さんが肉体的につらくなってきたというところもあって、農家の若手の方々、といっても40代50代の方々なんですけど、が中心になって部会をつくって、今度はそちらの方にシフトしていこうっていうような形

で、今回、今年度から立ち上げさせてもらったっていうところで、まだやり方も、前のをそのまま踏襲するわけにもいかないので、農家の方もたくさん、以前に比べれば来られているので、その調整をどうしていくのかっていうところで、今いろいろな会議をしたり打ち合わせをしたりして進めているっていうような状況です。

【村上委員】 わかりました。ありがとうございます。

【事務局】 二松クラブを代表する夏のイベント等についてなんですが、先ほども今後の課題でお話したんですが、まずは給食運營業務をしっかり行った上で、食育推進に力を入れていきたいなと思っています。

結論から言うと、11校でやってくださいって言われるのはなかなか難しいと思うので、少しずつ拡大するのであれば、次年度は申し訳ないんですけど二小さんをお休みして、別の学校をやるとか、そういう方向で拡大できたらと思っています。

【村上委員】 ありがとうございます。

【中村会長】 では、その他よろしいでしょうか。

はい。それでは宇津野委員お願いいたします。

【宇津野副会長】 ちょっと詳しくなくて申し訳ないんですけど、給食費の公会計化っていうのが26市のうちの約半数の市で実施されているということで、今後の課題に上がってて、公会計化っていうのはどういうふうに今までと変わるのか、というところが教えていただきたいと。

あとは、収支のお話で無償化になったからっていうお話だったんですけど、多分今までもご説明いただいているかもしれないんですけど、無償化になったことで、今後の物資の予算の組み方とかが、どう変わるのかというか、予算としてもちょっと今までより上げていけるのかとか、いいものを選ぶとか。あと今物価もどんどん上がっているんで、今後の予算とその物資の内容っていうのがどうなっていくのかっていうのが、ちょっとわからなくて、その辺を少しお聞きできたらと思います。

【中村会長】 事務局からよろしいでしょうか。お願いします。

【事務局】 2つご質問いただいているんですが、公会計化によって何が変わるのかというものと、無償化したことによる予算の組み方ですとか、予算多くなるのか、その辺のお話だと思うんですが。

2つとも関連している話なので一緒にお答えさせていただきますと、公会計化っていうのは、いわゆる市の税金で予算を組んで、歳入歳出を組んでいくっていうことなんですけども、今は無償化したので、保護者の方からいただけないんですが、以前は保護者の方からいただいた給食費でやりくりをしていたので、公（おおやけ）に対して私（わたくし）の私費（しひ）会計という、そういう区別をしておりました。

その私費会計の部分を公の方の公金税金で賄う形のものが公会計化という話になってきま

す。もともと公会計化については、目的がありまして、実は教職員の方々が給食費を未納の方に対して催促したりとか、そういったことが全国的に教職員の負担の増加に繋がっているということで、その部分を給食センターの方に、教育委員会の方に肩代わりさせて、教職員の方の、時間外労働を減らしましょうと、そういう目的で会計化っていうのを進めるっていうふうに全国で始まったんですけども、国立市はもともと給食センターがずっと給食費の徴収を行っていたので、その辺の効果は全くないところなんですね。なんですけどとにかく公会計化すると、別に今もやってないわけじゃないんですけど、予算の透明性であるとか、そういったところがはっきりするっていうことで多摩地域の26市でも半分ぐらいの自治体が今、公会計化を行っている、というような状況にあります。

公会計化で予算の組み方が普通の市の予算の組み方と同じになるので、基本的には税金で歳入収入と支出を組んでいくことになります。基本は今までと変わらないので、給食費、皆さんからもお支払いいただいていた給食費×人数×食数により、年間の支出見込みを出して、それに対応するお金、収入を計算して予算を組むというような形になるんですけども。

令和6年度までは給食費では賄えない分を物価高騰分の補助金として市からいただいていたものがありました。ただ、令和7年度当初に給食費の改定をしたので、基本的には給食費改定分で食数と人数を掛けてやれば、給食費、食材の購入費については全部賄えるというような状況で考えています。ただ物価高騰がもうちょっと異常なことになっているので、もしかすると、来年、再来年にまた給食費を上げるっていうことになるかもしれませんが、保護者の皆さんにはあまり関係のない話になってきます。以上です。

【宇津野副会長】 ありがとうございます。そうすると、内容とか質は今の状態を維持する形で、物価高騰に伴って、また数年の間に給食費を、予算を上げるように、これは市の方と交渉しているか、どういう形か分かりませんが、市の予算として給食費の改定があるかもしれない、物価高騰次第であるかもっていう予想がされているということでしょうか。

【事務局】 はい、そうですね。おっしゃる通りで、基本的にその予算を組むのにこれぐらいの支出があるので、これぐらいのものが要するっていう形になると思うので、その支出に対して収入が足りないのであれば、給食費を上げて、その収入分を賄うというような形になるので、物価高騰が同じか今以上に上がっていくっていうことになれば、給食費改定したんですけども、足りないということになるので、上げていくっていうようなことになります。

【宇津野副会長】 例えば物価高騰の理由以外に、今思いつくことだと、先ほどの地場野菜で買い上げる金額を割と市場より多めにする、他の自治体で、農家さんがより積極的に給食に提供して下さるようになっていうのをやってるっていう事例もあるというお話だったんですけど、そういった理由も、予算を値上げするかもしれないっていう時に理由の1つに挙がったりはしますか。

【事務局】 そうですね。基本的には地場野菜の納入についても、他の一般というか（入札

の) 八百屋さんと基本的には同じ金額でお願いしていて、ほぼ同じ金額で契約させてもらっているのですが、今のところ急にその、地場野菜をもっとお金を上げれば入れてくれるかっていう問題じゃない部分もあってですね、単純に野菜のできる時期の関係で、今手元に野菜がありませんということもあったりするので、単純に納入価格を上げれば、地場野菜がたくさん入ってくるかっていうところではないのかなっていうのはちょっと考えてるところですね。なので、地場野菜に関してはそこまで大きな(要因ではなく)、それよりも全体の物価高騰の影響の方が大きいかなと思います。

【宇津野副会長】 ありがとうございます。そうですね。物価高騰を代表として、そういう必要性があるという理由に関して、予算がついてくる予定ということですね。地場野菜については、先ほどの体調不良で納入できなくなったとかで納入が減ったっていう話もありましたので、いろんな視点から考えていいかないといけないうのかなというところで難しい、頭を抱えてらっしゃるところかなと思うんですけど。また、今後、色んな形でふやしていける方法があればかなと思います。ありがとうございます。

【中村会長】 では二俣委員お願いいたします。

【二俣委員】 一中二俣です。今のお話の続きなんですけども、今、無償化になって、保護者の負担はないので大丈夫ですっていう、今の現状はそういう状態ではあるんですけど、これ値上がりしました、保護者から取るんじゃないかと、質が下がりますとか、そういうふう調整されていきかねないんじゃないかなっていう。今まで、すごく質の高い給食を提供してくださっていたので、どういうふうに調整されていくのかなっていう心配があります。

まだ先の話になりますので、何とも言えない話でもあるんですけども、最近 SNS でも話題があらこちらで見かけると、こんなに国立の給食と違うんだなっていうのを感じました。国立の給食は、内容もすごく充実していて、値段がなかなか下がらなかったんだらうなっていう考えになるんですけども、他のところはすぐに公費で賄えるっていうのを国立市ではなかなか賄えなかったっていう現状はそういうところかなっていう思いがあるんですが、今はいいんですけど、もし経営的に難しいっていうふうになったときに、前に、堀端先生がどのタイミングで値段を見直していくのかをきちんと決めた方がいいですよってアドバイスくださったときに、まだそこまで考えられないなっていう気持ちで発言はできなかったんですけど、やっぱりどこにしわ寄せが来るのかきちんと考える必要もあるのかなと思うので、どうしていいかもわからないんですけども。今は支払いがなくなってよかったっていう気持ちでいっぱいですけど、給食のことをちゃんと考えたときに、きちんとタイミングを見つけながら、今の収支で大丈夫かなっていう、内容としても、誰かが負担になってないかなっていうところを考えていけたらいいかなと思います。以上です。

【中村会長】 森田委員お願いします。

【森田委員】 二小の森田です。今の続きになると思うんですけども、公会計化で私費から

税金になるということで、今、例えば税金っていうとどきってなるんですけど、保護者だけではなくて他の市民から、今サポートが必要で苦しんでる人から意見が出たりとか、そういった場合にステーションの方では、その意見を取り入れるということは考えてるのかっていうことと、結構国立の方って意見強いですよんねと思っていて、私たちとしてはやっぱり選定とか基準とか、あと規格とか本当に落とさないで今の、レベルも安心安全なので、そこは保っていただきたいなというところが多分一致してると思うんですけども、その辺りはいかがですか。

【事務局】 うまく答えられるか分かりませんが、まずは、ある程度の質を保つために予算は計上していきます。ただその先どうなるのかは私が話せるものではないので、差し控えさせていただきますが、栄養士としては、予算内でうまく献立を立てる力をみんな持っていると思うので、急にどんと質が下がるというのはあんまり考えられないかなと思います。また、見せ方というのもあるので、皆さんが満足していただけるような献立づくりは、予算内できちっとしていきたいと思いますし、していける自信もちょっとあります。

ちょっと補足させていただきますと、市の予算になるっていうところですね、何ていうか奥の手というか、補正予算というものがあまして、これは予算を編成したときに、予想できなかったような理由で予算が足りなくなってしまうというようなときは補正予算というものでプラスして、もしくはマイナスしてっていうようなことを議会に諮って承認をいただくというようなことが市の予算編成の中ではできるので、もし万一、物価上昇がものすごく上がってしまっていて、進んでしまっていて、このままでは今の給食の質を維持できないというような事態になりましたら、そこは補正予算を組んで、支出をふやすと、いうようなことができるようになります、公会計化をすれば。逆に今、私費会計の場合ですと、追加徴収っていうのはもちろんできないので、その部分は、令和6年度までですと、これもやはり市の方から補助金という形でお金をいただいたというような状況になっています。

今、久保の方から申し上げましたけれども、給食の質を下げるっていうのは、全く考えていないというか、そういう、何とかその質を維持向上させるためにどうしたらいいのかっていうような工夫を常日頃しておりますので、お金でそれを解決できるというのであれば、補正予算を組むというようなことも考えに入れております。

ただちょっと今日所長がいないので、ここで給食ステーションの統一した見解を申し上げられないという状況だけはご了承いただければと思います。以上です。

【宇津野副会長】 意気込みを感じてどうもありがとうございます。嬉しいです。

【中村会長】 皆様からのご意見を聞いて、学校が担う食育推進について強く使命感を感じました。質を落とさないことや、しっかりと栄養面の担保をしていくことに加え、やはり給食は食育の大きな大切な機会ですから、給食を通して子供たちに育てるべき資質能力をしっかりと見極めて取り組み、その成果を保護者・地域の皆様と共有していくことの大切さを感じました。子供たちが給食を通して学ぶ様々なこと。豊かな食文化や食事のマナー、食材やその栄養

について。友達と一緒に食事をする喜び。そういった子供たちの学びの成果や姿について、もっと保護者の方々だけでなく、地域の方々にも力強く発信伝えていくことが学校の役目ととらえ、折に触れて発信してまいります。市民の方々に向けて皆様が納めた大切な税金が適切かつ意義深いものに使われているということを発信していきます。

また、くにたち食育推進・給食ステーションが様々な体験会や訪問会を通して、直接子供たちの食育に関わってくれています。子供たちはそういった機会を通して、くにたち食育推進・給食ステーション「カムカムキッチン」というとてもなじみある、愛着を持てるネーミングも含め、自分たちの町のこの施設を誇りに思っています。そのことも地域の方々が安心してもらえるように、学校ホームページや学校だより等を通して発信をしていきます。長くなりましたが、以上でございます。

それでは、特にその他なければ次に移ります。

では4番、その他ですが、委員の皆様からは何かありますでしょうか。

二俣委員お願いいたします。

【二俣委員】一中二俣です。給食の様子を見学に学校に行くんですけども、その時に配膳員の方にも話を聞くことがあって、何か困ったことはないですかというふうに、伺ったところ、麺の処理の仕方をできれば改善して欲しいなというお声をいただいて、なかなか子供の声などは上げる機会があるんですけど、配膳されてる方の声っていうのはなかなか拾い上げにくいものなのかなということで、議題に上げさせてもらいたいんですけど、教室から出すときには、まだ食べる子がいるのかなという配慮もあるのか、袋に入れたまま返るんですけど、それを配膳室で全部袋から出して、残飯として計量するために全部袋から出すらしいんですね。その作業がすごく大変だということだったんですけども、使えなくなってしまうので開けてしまったらもう廃棄という形なので難しいと思うんですけども、いかがでしょう。改善してもらえると、配膳員の方の仕事の大変さがなくなるんじゃないかなという点ともう1点、新しい校舎になっていくところは、配膳室にもエアコンがついたりとかそういう配慮があると思うんですけども、配膳室だけにエアコンがないという状況で、窓を開けるけど、すごく重労働で食器を全部運んだりとか、そういう作業は本当に大変なお仕事なんですけども。もう生命の危機にさらされてるんじゃないかっていう状況で働かれています。校舎のことなので、すぐにつけるとかそういうことは難しいと思うんですけども、何か配慮が必要な場所なのではないかなということですね。

【中村会長】 残飯の処理についてはしっかり徹底して、配膳の方々の手間が増えないようしっかりと対応していきます。

また、配膳員の方々の環境改善に向けては、この熱中症が心配される時期が近くなりますと、熱中症等事故等ないように、くにたち食育推進・給食ステーションから配慮事項等の依頼が学校長の方へきます。引き続き、安全対策を徹底してまいります。ありがとうございます、

しっかりと伝えて参ります。

【事務局】 よろしいですか。すいません、麺の片付け方なんですけど、まず基本ルールとしては各学級で麺箱を空っぽにして返して欲しいというお願いをしているんですが、そこが難しいようです。次のステップとして配膳員が空になってるかチェックして、最終的に給食ステーションに戻って、麺屋さんには空箱を返すという約束になっているので、誰かがやらなきゃいけないんですね。その中で多分、一中は配膳員の業務になっているのかと思うんです。配膳員ができない場合、箱がそのまま戻ってきて調理員が同じことを、やることになってしまうという流れだと思います。

【二俣委員】 ありがとうございます。娘に聞いたんですけどね、麺を処理したことはないと言っていたので、配膳員さんが学校にいえる関係の方もいれば、言えない関係の方もいるのかなと思うので、また学校の方もそういう意見があったこと、その風通しがよくなって、少しでも快適にお仕事できるように、やってもらえればいいなと思うので、また私からも発信していきたいと思います。ありがとうございます。よろしくお願いします。

前もお話させていただいたんですけども、子供たちからの意見の集め方ですけども、アンケートをパソコンで行っているシステムをぜひ国立から発信を、まだなかなかやっている市はないと思うのでぜひそういうシステムを、作っていただきたいなと思います。入力の方が難しいっていうふうにおっしゃってたんですけども、選択するとか、今の小学生たちもきっとパソコンで選ぶことやアンケートも学校でやってるので、できるやり方もあると思うので、ぜひ進めてもらいたいなと。食べて良かったなっていう感想を直接に届けられるシステムができるといいなと思います。

学校によって、その年によってパソコンの使い方の決まりがどんどん変わっていくので、なかなかその面も、その点を配慮しながら考えていかないと、子供がさわれない場所にパソコンがあつたりとかする等、アンケートをしてねって言ってもパソコンさわれないんだよねっていう状況もあると思うので、その辺りの調整もしていただきながら、ぜひよろしくお願いします。以上です。

【中村会長】 ありがとうございます。それではその他よろしいでしょうか。

では森田委員お願いいたします。

【森田委員】 二小の森田です。続きで毎回申し訳ないんですけども継続的に子供の意見を聞いて欲しいという話、私もお伝えしていて、これ最後なんか1年間の感想みたいな感じで長野さんがおっしゃっていたので、ちょっとまとめてきたんですけど、何度か議題に上がったようなことを継続的にお話を次の会議とかでも話していけるようなシステムで、例えば1年間でそのまとまったものを、教育委員会であつたり、ステーションでもいいんですけども意見として上げれるような、毎年毎年、ていうのが1年間の集積としてあってもいいのかなっていうふうに思っていて、私も同意ですね、直接子供たちから意見を聞いていただきたい、というの

は子供基本条例ができたってということも絡めてですね、ぜひしていただきたいなと思って。この間日光にうち子供がいつてきたんですけど、その間にチーズポテト焼きが出たとかいって、私は食べれないんだとか、そういう意見ですとか、あともやしのサラダ、このドレッシングがすごい美味しいらしいんですね、家で何回もおかわりしたよとか、そういう話聞くので、そういうのが直接伝わったら本当にどちらにも、いいかなと思っていて。こういったのが欲しい、食べたいって言って、また栄養士さんたちのモチベーションになったりとかそういったことが負担でなくできるようなシステムをぜひ欲しいなと思っていて、負担にならないようにということで例えば、子供たちからの発信がバーッと来て、月に1回だけお返事返すとかでもいいと思うんですけど、「見たよ」みたいな感じで、何かしらそういった、意見を受け取っていただけるような、仕組みがあるとすごくいいなと思っています。どうでしょうか。

継続的な議題をつなげて1つ意見を受けられるというところと子供たちの意見をグーグルか何かで、もう子供たちすぐにフィットできると思うので、負担でない形で実現できればと思うんですけど。

【事務局】 ちょっと普通の回答なんですけど、ご意見を承りましたので、実現に向けていきたいと思います。

【森田委員】 今日で終わりなので、次の委員の方にもちょっとつなげていきたいと思います。よろしくお願いします。ありがとうございます。

【中村会長】 それでは今森田委員からもありましたように、今回最後の会議ですので、今日はお一人様ずつから、今のご質問等でもいいですし、今年度1年間振り返ったご感想などを順にお1人様ずつからいただきたいなと思っています。

会長権限で決めてしまっても大変申し訳ありませんが、副会長の宇津野委員を先頭に、こちら時計回りといいますか、順番にお1人ずつマイクをまわしていただきますので、どうぞ今日最後ですから、皆さん方の思いのたけをたくさん出していただければ幸いです。宇津野委員お願いいたします。

【宇津野副会長】 1年間ありがとうございました。私がこの審議員に興味を持ったのは、就学前から給食センターのことは気になっていて、話も伺っていたのでどうなったのかなっていうのと、やっぱり子供の、毎日いただく給食の質と安全がすごく気になったので、1年間やらせていただけたんですけれども。直に栄養士さんはじめ現場の調理師さんが答えてくださるときは、お話を伺うことで、安心感が1つ高まったなっていうのと、一緒に考えて意見を聞いていただけて、それを踏まえてまた現場で頑張ってくださいっていうのがすごく、国立以外であんまり聞かないっていう。他の市のお子さんを持つ親御さんに聞くとやっぱりおっしゃるので、これはすごく意義があることだし、ないっていうのは考えられないなっていうのは改めて、思いました。

質の維持向上っていうのは、職員さんの願いでもあるっていう形で、先ほども、今後も、っ

ということをいただいていますし、この場で出たお話だとまた要望としてあげやすいというお話もあったので、その質のお話、予算の話、また、現場の職員さんたちの話、子供たちの一人一人の意見っていうお話、すごく多岐に渡ってこの場で上がった内容だとより給食センターの方も強く意見として出せるんだろうなと思います。

会計がやはり公費になったことでよりそういった意義が強くなっていくんじゃないかなと思うので、市民の声であったり、保護者の声っていうのはしっかり上げていって、一緒に考えて、これからも安心でおいしいみんなはなるべく大勢の子供が満足できる給食をつっていうところをすごく感じています。

また、私は、次は立候補しなくて新しく立候補してくださった方がたくさんいらっしゃったということでお譲りはしたんですけど、次の方もすごく、次の方はもっと料理には精通している方でまた違った、もっと意見を出していただけたらそうですし、すごく今までの議題についても興味を持ってくださっているので、これまで上がっていて、森田委員が継続して上がった問題について話していて、何かの形に1つずつ、システム、子供の意見っていうか、何かこう形にしていってというのが積み上がればっていう話でしたが、次の委員さんにもそういう内容も伝えて、ぜひ継続して審議し、形にしていけるにはどうしたらいいかっていうのをまた続けていただければなと思います。どうもありがとうございました。

【池上委員】 1年間ありがとうございました。先日親子丼が出て、親子丼、センターさんが初めての試みでしたっけ。

【事務局】 （初めて）では、ないです。

【池上委員】 すごく美味しくて。いろんな試みしてくださってることを献立作成委員会で知ると子供たちに伝えて、なんかほんと献立メモを加えて話をするとうごく子供たち喜んで食べてくれる様子がありますので、栄養士さんとの交流も、個人的には綿密にコミュニケーションをとるようにしていて、やっぱり二小もちょっと牛乳の残率が高かったりして、牛乳を返す場所の片付け方とかちょっとひどくなってしまったときには、給食主任の方から全校朝会で動画を流して周知させていただいて、片付け方の指導をして、なんてこともしています。皆さんとそれから配膳員の方々と給食センターとのかけ橋になれるのは給食主任かなと思うので、その連携を風通し良くしながら、改善していきたいなと思っているところです。

1個だけさっき質問しようかなと思ったんですけども、インシデントなく実施するっていうところがやっぱり現場としては一番、本当に本当に命に関わることなので安全に気をつけてやっているとあるんですけども、やっぱりランチボックスのお子さんに関しては、もう安心安全で届けられるんですが、詳細献立のお子さんに関しては、どうしても最後の責任が担任になるところがある仕組みになっていて、やっぱり現場だとね、例えば先生が、喧嘩をしている（子供の）担任がその対応に追われてるってなったときに、子供たちも自分で気づくの難しいし、担任1人だとなかなか難しいなと思っているところがあります。詳細献立もあるお子

さん、多分黄色トレイで運ぶことになってるんですけども、黄色トレイも毎日必ず人数分入ってるので、担任としてはいつアレルギー対応しなくてはいけなくて、今日アレルギー対応がないんだなって、本当は一目瞭然でわかるとありがたいのかなっていう声が、現場からちらほら聞こえてはいて、ただそれをちょっとやっぱり、センターさんの方をお願いしてしまうと業務量がとんでもなくなってしまうので、それで今度給食主任会のときでも個人的にでもいいので各校の取り組みとか、他の給食センターさんの取り組みなんかを、伺えると大変ありがたいなと思いました。本当に命を守るためにこちらも頑張っ参りますので、引き続きどうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。

【木曾委員】 一小的木曾です。1年間お世話になりました、ありがとうございました。

給食審議委員をさせていただくのは初めてで、こんなにも市内の小中学校の保護者の方とか、事務局の方が子供の食のことについて、真剣に意見を交わす場があるっていうことが本当に素晴らしいなと思いました。子供の本当に食の安心安全がこういうところから保たれているというのは、本当にありがたく思いました。

1年間させていただいて、本当によかったもので、来年は三中の方から立候補させていただきしたので、引き続きよろしくお願ひいたします。

【森田委員】 二小的森田です。すごい初めてだったんですけども、なんかレベルの高い皆さん質問とか、あとすごい、本当に給食に対する思いがあるんだな、保護者もですね、ていうのをすごい感じた1年でした。コロナは本当に黙食が続いて、本当に食育どうなるんだろうってすごい保護者としては不安でした。で、今本当に子供たち巻き返してですね本当楽しく向かい合って食べてる様子を見て本当にほっとしてますよ。本当に日々の当たり前に感謝しています。その中に入って、中に入ってやっぱりわかることがあって例えば、本当に作り手の思いをすごく感じるの、例えば保護者間で、給食の批判が出たりするとむしろ擁護に回って「いやこんな頑張っんだよ」っていうふうに、もう言いたいっていう、こちらとしては、というような思いにさせていただいて本当にありがとうございます。時には調理師さんと栄養士さんでぶつかって、子供たちの夢の給食にぶつかってやってるという話も聞いて本当に子供が主体で、思いを感じられるので、本当にありがたいなと感じた1年間でした。はい。で、しつこくすみませんが、継続的な審議として何か形にできるような形で、そうですね。維持向上の、給食審議員であって欲しいなと思います。まだちょっと中学まであと6年ぐらいまであって、また立候補したいと思いますよ。ろしくお願ひいたします。来年はずれますが、またよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

【村上委員】 1年間ありがとうございました。五小村上です。私は実は6年間、給食審議員をやらせてもらって、今年で卒業なんですけれども。初めて給食審議委員会に参加したときに、なんか私たちって何にも役に立たないんだなって思ったのが感想だったんです。何のために審議員がいるのかわからないというか。だけど、何かその中でやっぱりそれぞれが思うことを、

すいません、感極まって、うんうん。全く何の知識もなく来る方と全く興味なく来る方とすごい興味を持ってくるとか。いろんな人がいていろんなことを言って、でもできることできないことってというのがやっぱりあって。給食センターさん側で学校側でもそう。でも、でもそれが何か本当に6年かけて、やっぱり何かこう、石が何かこう雫がとととととととたれると何か変わってくるように変わってるんですよ。6年間ですごい。だから、すごく楽しいなって思うようになってきたのが3年ぐらい前の審議委員会からだったんじゃないかなというふうに思います。でもそれは、本当にこんな意見、こんなこと聞いてもいいのかなとか思ったりとか、こんな意見言ってもいいのかなって思ってる人たちがすごくこの場で発言を頑張ってきてから、それがやっぱり無意味じゃないんだなっていうのをすごく感じる6年間でした。なので、継続的に行って、すごく大事なことだなと思うんですけど、審議委員の毎年変わる学校もあれば、長くやる学校もあったりとか、そのなる審議委員さんの知識もあったりとか、あとは審議委員がどこまでそれを管理して受け継いでいくのかっていう体制も、あまりはっきりされていないというか、その中で、中でもどうしていいかわかんないけど、なかなかなんですけれども、積み上げてきたものを、来年度も次の審議員さんが引き継げるように、もし審議員さんが静かな来年度の審議員さんだったら、何でも言っていていいですよ、こんなことを今までの審議員質問しましたよみたいな、そういう雰囲気づくりをぜひ、事務局の方とかセンターの方とか、会長さん副会長になるか、部会長はね、審議員からなんですけど、していただけたらいいなと思います。そしたらまた、いい審議委員の7年度となるんじゃないかなと思います。ありがとうございました。

【末田委員】 六小末田です。1年間ありがとうございました。私は毎日ここの職場に、ここが職場なので毎日給食を作りに来ていて、でもやっぱり給食評議委員をやる前にも、こうやってみんなの意見を聞く機会が2ヶ月に1回あるようになって、もっと仕事頑張ろうって思えるようになったので、私の個人的なやつなんですけど。はい。1年間やってよかったと思ってます。

一番印象的だったのは、武蔵野市の給食センターに行ったときで。あっちの給食センターも綺麗で広くて、でもなんかあの、人が、働いてる人がいっぱいいたなっていうのがすごく、印象的だったんで。こっちも増えるといいなと思います。とてもいい経験が1年間できたので、ありがとうございました。

【中島委員】 第七小学校から参りました、中島です。1年間ありがとうございました。私も初めて務めさせて頂いて、きっかけは、子供たちがすごく給食が大好きなこと、子供たちが今日は給食何だったとかっていう話を楽しそうにしていることがありまして、参加させて頂きました。先ほどお話もあったのですが、今回の年度、しかわからないのですが、この年度の方の思いだったりっていうのがすごく熱く伝わってきたところが何度もありまして、何度もご意見に同じようなことが出たことなども、やっぱりそれで終わりではなくて、その思いだったりっていうのを次年度も同じように、新しい方がまた同じような内容をおっしゃったりすること

もあると思いますし、楽しいっていうところで終わりではなくて、そういう、去年も出た話でっていう形で、ずっと継続して、歴代の方の思いがずっと伝わっていく会議であると良いのではないかなと感じました。ありがとうございました。

【二俣委員】 一中二俣です。私は去年に引き続き2年目なんですけれども、去年はあまり発言もできずに終わってしまって、何とか今年はもうちょっと役に立ちたいなと思って動いてきました。

お話いつてるかわからないんですけども、やっぱり先ほどもあったように、学校のイベントに入れてもらうようには前年度にお話を持って行って、来年はこういうふうにお願いしますって言っていかないと学校の整いができないと思うので、今年は来年に向けてお願いしますってお話をさせていただいたら、学校が動いてくださって、連絡いつてるかわからないんですけども、うちの方は学校の授業の方に栄養士さんに来てもらえるように進んでると思いますので、あとは役員と、先生と生徒と給食センターの方のかけ橋になれたかなと思って少しだけ、満足しています。

お仕事増えてしまってすみせんけども、なかなか中学生はここにはこれないので、学校に行けるシステムがつくれたら嬉しいなと思います。ぜひここで聞いた栄養士さんたち、調理員さんたちの思いを丁寧にお話してくださって給食に対しての思いを変えて、もっと給食に興味を持ってもらったらいいなと思っています。実は来年もやりますので、よろしくお願いします。

【川端委員】 二中から来ました川端です、よろしくお願いします。二中は一番生徒数が多くて、残飯数が多い学校です。私はちょっと二中で審議委員になる人がいなかったの、会長やってくださいって言われて、会長で、このまま審議委員をやらせていただいたのと、あと六小のときも10年前になるんですけど、やっぱり会長がいらないから出てってというので2年間やって、3年間審議委員をやってきましたけど、10年前のときはやっぱり放射能問題がちょうどあったので、その時の保護者は、どこで物資を買ったのか、ちゃんと数値は出ているのかってすごいうるさかったんですよ。そういうところで、ただその時思ってたんですけどじゃあ、ご自宅の食事は？って、皆さんそれは言っていました。自宅の食事は気をつけているの？ただここで文句を言っているだけでは、やっぱり事は進まないから協力してやったほうがいいんじゃないかっていう。そういうその時も出たんですけど、今回こうやってまたちょっと参加させていただいて、皆さんすごい意見言う方とか、あと、そうなんだそう思ってるんだっていったって先ほどの一中さんですかね、学校の方の協力っていうんだったら、PTAの会長さん繋がりですとPTAを通してやった方が、話は通りやすいです。何でもそうです、私もそうなんですけど今回こうやって参加させていただいて、他の認証さんがやってるから、こないだ話して、二中なんか特に残飯が多いで生徒なんかははっきり、あれなんですけど、女の子はもう体を気にして食べない、で、男の子は食が本当に遅いんですよ。だからすごい残飯で、この間もちょっと子供に言ったら、も

うちちょっと卒業しちゃったので今年あれなんですけど、子供に聞いたら、男の方が食べないんだよっていうぐらいで。野菜は食べない、野菜嫌い。でもフルーツとかデザートは食べる、で他の牛乳は一切飲まない、美味しくないからっていうので、もう中学校の子供たちはもうすごいそういうことで、通ってきちゃってるので、そういうところで二中も、私は校長にちゃんと言ったんですけど、二中もそうやって栄養士さんが来て話したらどうだっていうのを言ったんですけど、ただやっぱり人数が多いじゃないですか、生徒数。あと授業の確保もやっぱりちょっと受験とかそういうモードとか入ってると中学校ってやっぱりなかなか難しいんですよ。

あと食事の問題って各家庭でもいろいろあって、やっぱりなんですかね、肥えてるんですよ。なんか薄い味っていうのが、薄くはないと思うんですよ、その基準でちゃんとなってるので、でも皆さんもう、味が濃くなっているんで、なかなかそこを言っても、難しいのかなっていうのは、印象が強かったです。一生懸命ここで言うのもそうなんですけど、もし本当に審議委員の方がPTAの方にもちょっと投げかけて協力して欲しいなっていうのはあります。そうすれば、PTAの会長さんだって、こういう意見が出てるってか審議委員さんの方から出ているからって、一緒にやりましょうっていうふうに話は通ると思うんですよ。そういうふうにしていって、あと給食委員さんも徐々に減っています各学校、多分人数も、定員数減っているとします各がこないだもそういう話が出ているので、ちょっと給食審議員以外にも、ただ言い方はあれなんですけど審議員さんはお金出るのに、給食委員さんはお金が出ない。それなのに、あんだけ会議に出ているっていうことで、去年一昨年ぐらいから、PTA会長会の方で対面式をちょっと減らして欲しい、ということ声をかけたら、それはそうしようということで会議を、ちょっと減らしたわけではないんですけど、書面式にさせていただいたっていう形をとっているんで、何か審議委員さんの方にも委員さんになったら、ちょっと何度も言うようなんですけど、PTAの方と協力していただけたらなと思います。ちょっとそれは私もすごい思っていたので、皆さん協力していただけたらなと思います。あと1年間ありがとうございました。

【矢野委員】 はい。三中の矢野です。私自身もちょっとうっかりなってしまった役員で、今まで本当に給食っていうのは、親が何とも思わなくても安心安全っていうのが勝手に守られていて、私なんかが気にしなくても、今の状態っていうのが維持・向上されていくっていうところでしたので、初めて参加したときに皆さんがすごく質疑応答とか、意見をされていて、本当にすごいなと思いました。先ほどからやはり出てるように、今せっかく出た意見が来年度の方たちにもスムーズに引き継げるといいなっていうところで、来年三中は木曾さんが立候補してくださったので、私も安心して卒業するんですけども、この先もやはり孫とかひ孫の時代まで、今の給食の質が保たれることを私自身も少し意識しつつっていうふうに変わってきましたので、これからも意識したいと思います。1年間ありがとうございました。

【中村会長】 今年度1年間、ここにいらっしゃる皆様方には、市の給食事業について、様々なご協力ご理解をいただいていたところだと思います。とりわけ、ここにいる方々は保護者様

方の代表です。お子様の食を通した健やかな育成に向けた、愛情溢れる話し合いにこうやって同席させていただいたのは、校長としても学ぶものが大変多かったなと感じている次第です。国立市 11 校の校長代表として、皆様方には心より感謝を申し上げます。本当に 1 年間ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の議題はすべて終了いたしました。ではこれにて第 6 回国立市給食運営審議会を終了いたします。皆様、1 年間大変にお疲れ様でした。ありがとうございました。

— 了 —